

JRECO 通信

No.39



一般財団法人 日本冷媒・環境保全機

引き続き、一般財団法人 日本冷媒・環境保全機構（JRECO）として、会員の皆様に知っていただきたいこと等を『JRECO 通信』としてお届けします。

I. 産業構造審議会 フロン類対策ワーキンググループ（第 1 回）要旨

（一財）日本冷媒・環境保全機構 専務理事 高島章吉

今年の 3 月 25 日に産業構造審議会 保安・消費生活用製品安全分科会 化学物質政策小委員会 フロン類対策ワーキンググループ（第 1 回）が開催されたのでその要旨を記載します。

【1. オゾン層保護法に基づく運用結果】

2024 年のオゾン層保護法に基づく割当て運用結果が報告され、消費量と生産量の割当てが日本の基準値を下回ることが確認された。

- 2024 年の消費量割当て：約 3,200 万 t-CO₂、基準値 4,291 万 t-CO₂ から 25%の余裕
- 2024 年の生産量割当て：約 2,675 万 t-CO₂、基準値 3,002 万 t-CO₂ から 11%の余裕
- 特定物質の生産・輸出・輸入・消費量はゼロ
- 平均販売価格は R-134a を除き、急激な高騰は見られず、継続的なモニタリングが必要

【2. プレチャージ輸入品に関する調査結果】

プレチャージ輸入品に含まれるフロン類の量に関する調査結果が報告され、国内のフロン類の影響が限定的であることが示された。

- 調査対象は家庭用エアコン、業務用エアコン、業務用冷凍冷蔵機器、自動車用エアコン
- 令和 5 年度の合計は 274.5 万 t-CO₂ で、令和 3 年度から 2 年連続で減少
- 減少の原因は輸入台数の減少とノンフロンへの代替進行

【3. 産業界の自主行動計画の取組状況】

2023 年における産業界の自主行動計画の取組状況が報告され、代替フロンガスの排出量が減少していることが確認された。

- 2023 年の代替フロンガス排出量は 3,544 万 t-CO₂ で、2022 年比 4.1%減少
- HFC の排出量は 3,101 万 t-CO₂ で、2022 年比 4.0%減少し、要因としてオゾン層保護法やフロン排出抑制法による効果と考えている
- 14 団体のうち 3 団体が未達成だが、引き続き取組を進める

【4. 指定製品の達成状況について】

指定製品の目標値達成状況が報告され、店舗・事務所用エアコンと自動車用エアコンの達成状況が確認された。

- 店舗・事務所用エアコンの製造事業者 7 社全てが目標値を達成
- 自動車用エアコンの製造事業者 27 社中 15 社がノンフロンに転換、12 社中 8 社が目標値達成
- 表示義務の履行状況も確認され、店舗・事務所用エアコンは全て履行、自動車用エアコンは 9 社が履行

【5. 問合せ対応の業務効率化に向けた取り組み】

化学物質管理課の問合せ対応業務の効率化に向けて、チャットボットの導入が検討されている。

- 年間約 1 万件の問合せがあり、業務負担が大きい
- チャットボットは 24 時間・365 日対応可能で、業務効率化が期待される
- 令和 7 年度から本格的に導入を開始予定

自動車用エアコンに関する指定製品の達成状況についての質問があり、未達成の企業の影響度が議論された。全体の約5%の影響度であり、出荷台数は4,000台未満の企業が含まれている。

- 現行の見通しでは、2030 年に 1,930 万 t-CO₂、2035 年に 1,230 万 t-CO₂ の設定を考えている。
- キガリ改正に基づき、使用の上限を設定し、1 割程度の留保を行う。
- 2025 年の消費量見込みは 2,834 万 t-CO₂。

表示義務の履行状況についての質問があり、一部製品で表示漏れがあった理由が説明された。表示漏れは失念によるもので、すぐに対応された。

- オゾン層保護法は、フロン類の消費量を管理し、キガリ改正の義務を確実に達成するための基準を設けている。フロン類使用見通しは、オゾン法の指針と調和を保つために運用される。

-
- 7,152 (万t-CO₂)
- 【基準値(100%)】
- ▲10%
6,436
- ▲40%
4,291
- 2035年「フロン類使用見通し」(案)
- 2030年「フロン類使用見通し」(既定)
- 2030年「フロン類使用見通し」(見直し)
- 2030年「申請基準値」
- ▲70%
2,145
- ▲80%
1,430
- ▲85%
1,073
- 1.8割削減ライン
- 26年～29年
削減率y1：9.2%/年
- 30年
削減率y2：0%/年
- 2017年度 2019年(基準値) 2020年 2024年 2025年 2029年 2030年 2034年 2035年 2036年
- | Year | 2035 Projection (Case) | 2030 Projection (Reference) | 2030 Application Standard |
|------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------|
| 2017年度 | 7,152 (万t-CO ₂) | - | - |
| 2019年(基準値) | 6,436 (▲10%) | - | - |
| 2020年 | 6,436 | 6,436 | 6,436 |
| 2024年 | - | 4,291 (▲40%) | - |
| 2025年 | 4,291 (▲40%) | 2,840 | 2,834 (申請基準値) |
| 2029年 | - | 1,680 (参考) | 1,930 |
| 2030年 | 2,145 (▲70%) | 1,450 | 1,930 |
| 2034年 | 1,280 (参考) | - | - |
| 2035年 | 1,230 | - | - |
| 2036年 | - | - | - |

フロン類使用見通しは、フロン排出抑制法に基づき、国内で使用される HFC の消費量の見通しを示すもので、事業者はこれを基に消費量の低減に取り組む。2022 年に設定された 2030 年の値の改定と 2035 年の新規設定が提案されている。

- 再生冷媒の活用は重要であり、再生量の増加に向けた具体的な対策が求められている。再生冷媒のマテリアルフローを把握し、分析することが必要である。

- 2

- 欠。
- 自動車リサイクル法も含めた他法令についても再生量が増える仕組みの検討が必要。

- ㋏ 定期点検は1年または3年ごとに実施され、専門家による異常音の有無や目視、直接法、間接法などを組み合わせて行われる。

最近5年間の再生量と破壊量

	年度	再生量					破壊量				
		2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023
実トン (t/年)	R-32	1	1	11	42	53	66	66	79	87	90
	R-134a	73	31	50	80	85	833	695	751	647	634
	R-404A	90	44	68	64	101	177	210	234	263	282
	R-407C	138	98	117	169	206	448	484	542	567	519
	R-410A	325	375	545	843	1,176	932	1,028	1,185	1,166	1,261
GWP換算トン (万t-CO2/年)	R-32	0	0	1	3	4	4	4	5	6	6
	R-134a	10	4	7	11	12	119	99	107	93	91
	R-404A	35	17	27	25	40	69	82	92	103	111
	R-407C	25	17	21	30	37	79	86	96	100	92
	R-410A	68	78	114	176	246	195	215	248	244	264
	合計	138	117	169	245	338	467	487	548	546	563

(出典) フロン排出抑制法に基づくフロン類の再生量及び破壊量等の集計結果(経済産業省・環境省)

【11. 常時監視システムの導入】

常時監視システムの導入は、冷媒漏えいの早期発見と削減に寄与する。定期点検においてもこのシステムの活用が検討されている。

- 常時監視システムの導入により、漏えい量の削減が期待される。
- 現在、約3万台の常時監視システムが市場に導入されている。
- 漏えい削減効果は約25%と見込まれ、年間で約200万t-CO2の削減が可能とされている。

- 専門家による点検は、漏えいを未然に防ぐために必要である。
- 常時監視システムと専門家の点検を組み合わせることで、より効果的な漏えい対策が可能となる。

事務局より「今後の予定としましては、本ワーキンググループは年1回程度の開催を予定しております。それ以前に開催の必要が生じた場合は、委員及びオブザーバーの皆様にご連絡申し上げます。」と締めくくられた。

【12. 定期点検の重要性と方法】

定期点検は、専門家による目視点検と常時監視システムのハイブリッド方式が推奨されている。漏えいの兆候を事前に察知することが重要である。➤

II. 江戸・東京の歴史を訪ね歩きませんか：赤穂浪士引き上げの道「後編（築地本願寺から泉岳寺）」

今回は僕、南町奉行所与力 石川乙次郎が、赤穂浪士四十七士が吉良邸に討ち入ってから泉岳寺までの経路の後編、築地本願寺から泉岳寺まで紹介させていただきます。

時は元禄15年(1702年)12月14日寅の刻(午前4時頃)、火消し装束に身をかためた赤穂浪士四十七士が本所の吉良邸に討ち入りました。

無事、本会を遂げた赤穂浪士達は降り積もった雪を踏みしめ、隊列を整えて、未明の江戸の町を泉岳寺まで歩き、旧主浅野内匠頭の墓前に吉良上野介の首を備えました。

その距離は約 13 km、吉良邸出発が卯の刻（午前 6 時頃）、泉岳寺到着が辰の刻（午前 8 時頃）でした。



赤穂藩浅野家の旧江戸藩邸を偲んだ赤穂浪士達は一路、泉岳寺を目指します。

- ⑬ 築地本願寺 元和 3 年（1617 年）に、西本願寺の別院として浅草御門南の横山町（現在の日本橋横山町、東日本橋）に建立されました。「江戸海岸御坊」「浜町御坊」と呼ばれていました。しかし明暦の大火（振袖火事）により本堂を焼失し、その後、江戸幕府による区画整理のため旧地への再建が許されず、その代替地として八丁堀沖の海上が下付されました。そこで佃島（現：中央区佃）の門徒が中心となり、本堂再建のため



めに海を埋め立てて土地を築き（この埋め立て工事が地名築地の由来）、延宝 7 年（1679 年）に再建し、「築地御坊」と呼ばれるようになりました。なお、このときの本堂は西南（現在の築地市場）を向いて建てられ、場外市場のあたりが門前町となっていました。

大正 12 年（1923 年）9 月 1 日の関東大震災では、地震による倒壊は免れましたが、すぐ後に起こった火災により再び伽藍を焼失しました。また、58 か寺の寺中子院は、被災後の区画整理により各地へ移転しました。

現在の本堂は昭和 9 年（1934 年）の竣工です。古代インド様式をモチーフとしたこの建物は、当時の浄土真宗本願寺派法主・大谷光瑞と親交のあった東京帝国大学工学部名誉教授・伊東忠太による設計です。当時の宗教施設としては珍しい鉄筋コンクリート造で、大理石彫刻がふんだんに用いられ、そのスタイルは現在においても斬新かつ荘厳で、築地の街の代表的な顔です。本堂は重要文化財に指定されています。

- ⑭ 昭和通り 関東大震災の復興事業として計画、建設された道路です。当時東京市市長だった後藤新平の原案では道幅を 108 メートルとするものでしたが、広い道路の重要性が当時は受け入れられず、現在の道幅に狭められ、昭和 3 年（1928 年）に完成しました。



新橋駅を過ぎ、銀座中央通りを渡って直ぐ右側に「旧新橋停車場」があり、無料なので見学しましょう。日本の鉄道開業の地である汐留の歴史をご紹介しますとともに、明治期に日本の近代化を牽引した鉄道の発展と影響を、様々な事物を通じてご覧いただけます。

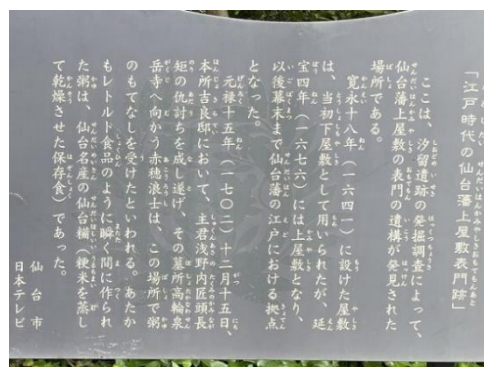
- ⑮ 仙台藩上屋敷表門跡 日本テレビ地上階の新橋駅側、汐留通り沿いに、仙台藩伊達家上屋敷の表門がこの辺にあったことを示す案内板があります。赤穂浪士はここで、粥のもてなしを受けたと書かれています。

伊達家の表高（公式の領地石高）は、陸奥での 60 万石に常陸と近江の飛び地 2 万石を合わせて 62 万石であり、大名家第 3 位の領地でしたが、新田開発に邁進した結果、幕末にはほぼ 100 万石近い 98 万石の実高を得るに至り、実質序列は前田家につぐ 2 位でした。

領地は江戸に近く、関東平野に入ればあとは江戸まで遮るものがなかったために常に警戒され、有名な伊達騒動も伊達家の力を削ぐための幕府の陰謀説もあるくらいです。江戸城の構築から始まり、神田川の開削やらさまざまな土木工事を命じられて常に金を使われました。

一方で江戸に近い大米作地ということで、江戸で米を売って儲けることに腐心しました。このため江戸で流通する米の多くは仙台米で、米価格の基準ともなっていました。また仙台藩の米を江戸に運ぶ航路が開拓されなければ、江戸の人口が 100 万人にもなることは不可能でした。

上屋敷は江戸時代当初は現在の日比谷公園あたりにありましたが、のち愛宕下に移され、さらにこの汐留となりました。また元は湿地帯であり、埋め立てて屋敷にしたため湿気が多かったですが、その一方で舟入を作ることができ、便利な面もありました。



- ⑯ 芝大門 慶長 3 年（1598 年）増上寺が麴町より現在の芝の地に移転し、その門前となった当地域は商店が立ち並び、次第に賑わいを見せるようになりました。

江戸時代初期は当地域に芝片門前・芝中門前・芝三島町などの町名がつき、独立した門前町となり町奉行支配となりました。現在の町名の芝大門は、昭和 47 年（1972 年）に当地域に住居表示が実施された際に新たに命名されたものです。当地域は増上寺の門前町として発展した場所であり、そのため、当地域の俗称である大門（増上寺の大門に由来）を新町名に採用することになりました。



- ⑰ 札の辻 札の辻という名称の由来は、ここに高札場が設けられて、布告法令などが掲示されたことによります。当時この場所からは江戸湾が眺められ、絶好の景色であったといえます。



- ⑱ 御田八幡（みたはちまん）神社 徳川家康公の江戸城入城の際に奇瑞があったことから、現在地である荏原郡上高輪村海岸を開拓して社殿を造営し、寛文 2 年（1662 年）8 月に遷座が行われました。菅田別尊命（ほむたわけのみこと、八幡神）を主祭神とし、天児屋根命（あめのこやねのみこと）、武内宿禰命（たけのうちのすくねのみこと）を配祀としています。



海側斜面に位置し、江戸時代には直ぐ正面に東海道が走り、その向こうは江戸湾の海浜が開け、さぞかし風光明媚であったと考えられます。明治 40 年代(1910 年前後)芝浦の埋め立てが始まりその面影を失うことになりました。周囲の木々の剪定は最低限にとどめられ、あたり一面薄暗く蕭蕭（しょうしょう）とした雰囲気漂わせています。

この神社は、高田郡兵衛が討ち入り後の浪士に酒樽を出した神社といわれています。

- ⑲ 高輪大木戸跡 木戸は最初元和 2 年（1616 年）に現在の場所より 700 メートルほど北（現在の港区芝 5-29-16）に芝口門として設置され、高札場も置かれ札の辻となっていました。芝口とは京方面から江戸に入るときに、ここから先が芝であるという意味で、街道の両側に築かれた幅約 20 メートルの土塁の間に木戸を設け、明け六ツ（午前 6 時前後）に開き、暮れ六ツ（午後 6 時前後）に閉じて、治安の維持と交通規制の役割を果たしました。



その木戸は宝永 7 年（1710 年）に現在の位置に移転（寛政 4 年（1792 年）など諸説あり）し、大木戸となり名称も高輪大木戸となり、東海道で江戸府内に入る入口、江戸の南の出入口の役割を担いました。移転後の木戸は両脇に長さ五間（9 メートル）、幅四間（7.2 メートル）、高さ一丈（10 尺=3 メートル）の石垣であり、間に柵と門が設けられていました。天保 2 年（1831 年）には芝口門の高札場もここに移され、芝口門の場所は元札ノ辻と呼ばれるようになりました。当時は海岸線沿いの場所で、大木戸の東側に海（江戸湾）が広がり、東海道を西へ旅する人を見送る人々が大木戸北側の店で宴会を催すなど常に賑わいのある場所で、江戸後期に刊行された『江戸名所図会』にもこの大木戸の絵と説明文が掲載されました。江戸時代後期に出入りを制限する門としての機能は停止されましたが、石垣は残されました。

幕末期に伊能忠敬はここを全国測量の基点としたとされます。

次に泉岳寺に向かう途中で肥後熊本藩細川家の下屋敷跡に「大石良雄（よしとか）外十六人忠烈の跡」のプレートがありますのでこれも探して行きましょう。



- ⑩ 泉岳寺 泉岳寺は慶長 17 年（1612 年）、徳川家康公が、桶狭間の戦いで織田信長軍に討ち取れた今川義元を弔うために建てたお寺です。義元の嫡男、氏真（うじざね）（令和 5 年（2023 年）の NHK 大河ドラマ「どうする家康」では溝端淳平が演じました）は家康公から高家（こうけ）として待遇され、品川に屋敷を与えられたとのことです。



元禄 14 年（1701 年）3 月 14 日、松の廊下の刃傷により切腹した浅野長矩（ながのり）が、次いで元禄 16 年（1703 年）2 月、元禄赤穂事件で赤穂義士 47 名が葬られました。長矩正室の瑤泉院（阿久里）、長矩実弟の浅野長広（浅野大学）、長広の代々子孫、大石家の墓所も当寺にあります。

浅野内匠頭の墓→
大石内蔵助達は墓前
に吉良上野介の首を
お供えしました



義士の討ち入り後、当時の住職・酬山（しゅうざん）が長矩の脇差（村正）や義士の所持品を売り払って収益を得たことに世間の批判が集まり、あわててこれらの品を買い戻しに走ったことがあるそうです。それでもなお大半の遺品が散佚し、21 世紀になってから発見されたりする刀剣が続出しています。

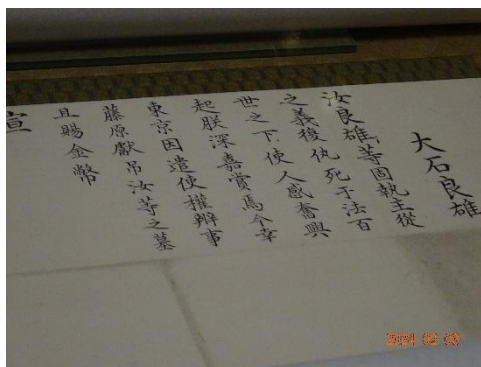


加えて、当該住職は怠惰で義士の墓所も放置してしまい、「泉岳寺の墓地には草が丈高く生い茂って、墓が並んでいるのも見えない」と同時代人の記録が残ります。徳川吉宗公の治世までは、江戸の墓参者が殆ど無かったと書かれています。「江戸開帳年表」にも寛延 3 年（1750 年）まで泉岳寺の記述はありません。江戸三座での歌舞伎『仮名手本忠臣蔵』上演もあって、人が来るようになったので金銭を徴収することにし、金の無いものは門番が入れないようにしました。

現在の泉岳寺には山門を潜って赤穂義士墓所の門に向かう石段左側に建つ赤穂義士記念館が

あります。館内には赤穂義士の遺品や討ち入りに関する文献などが展示されて、写真撮影も可であり一見の価値があります。

以上が赤穂浪士引き上げの道：後編（築地本願寺から泉岳寺）です。面白かったですでしょうか？ではまた。



Ⅲ. 《鈴木賢志のタイ国(シラチャ)駐在記 第五回 ～印象に残ったテーマⅠ～》

今回は印象に残ったアイテムを脈絡なく(思いつくままに)紹介していこうと思う。

1.《タイで経験した医療機関 etc》

～その1 健康診断～

通常、会社生活をしていると年1回の健康診断を受けることになると思うが、赴任時も同様に健康診断を受けることになっていた。静岡にいたときは会社の敷地内の診療所がメインだったが、こちらではバンコクにある『バムルンラード病院』という病院で実施された。



(写真1) 健康診断結果の冊子
れ、色々な言語が飛び交う混雑したハブ
次々に呼ばれ、あるいは連れて行かれて検査を受けていくわけだが、エラーを生じることもなく結構効率的に進んでいくのには最初驚いた。問診の医師も日本への留学経験がある人も多く、5人中(1回/年で5年駐在なので)3人くらいはそこそこの日本語の会話のできる医師に遭遇することができた。

ほかにも『サミティベート病院』というのがあり、こちらはバンコク以外に実はシラチャにも分院？があり、このお話も後ほど紹介するが、とりあえず会社指定の健康診断はバンコクのバムルンラードという病院で実施された。

この病院、タイでも1,2を争うしっかりした病院らしい。日本語のHPも充実しているが、日本語のできるスタッフが多い。特に案内の人は胸に各国の国旗をあしらったバッジをつけており、大概の人は複数のバッジをつけている。つまり、日本語と中国語と英語が話せる人は日の丸と星条旗と中国の国旗のバッジを胸につけているといった具合である。かなり混みあっているのが常だったが、受付を終え待っていると番号と名前を呼ば

空港のチェックインカウンターのようなところを

ここまでは、多言語を話せる人の多い日本の大病院でもよく見かける光景だが、一番驚いたのは、アラブ系というか、イスラム系と思しき人たちが多くいたことである。映画でよく見る、アラブの大富豪チックな人が車イスに乗り、取り巻きを引き連れた 15,6 人の集団が、一つ二つでなく、かなり多く行き交っており、さすがに武装はしていない(と思うが、見える範囲でのことである)が、かなり威圧感があつたのを覚えている。そこに黒人の人もチラホラ加わるため、人種の坩堝というか、病院というより大きな空港といった雰囲気である。

検査が終わると、待ちに待ったお食事タイムで、絶食した分、タププリじっくり味わうことができる。HP を見ていただくとわかるが、この病院、高級ホテルのような側面も持っており、色々なレストランも入っていて、日本食も結構おいしかったと記憶している。

その後、(写真 1)にあるような診断結果の冊子が送られてくる。タイ語交じりの英語で書かれているのだが、日本語訳された総括のようなものが 1 枚入っており、今回 駐在記を書く機会があつたのでじっくり見返したところ、最初の年は全く問題なかったが、年を追うごとに血圧が上がったり、中性脂肪の数値などが悪化し始め、それらに対する医師からのコメントが毎年のように増加していたことが判明した。

後から聞いた話だが、やはり病院ごとに評判があるようで、前述のバンコクのサミティベート病院は小児科の評判がいいらしく、家族帯同で小さい子供がいる家族などは夜中に駆け込んだ という話をいくつか教えられた。

～その 2 シラチャ・サミティベート病院～

上記のサミティベート病院はシラチャにも分院があるが、ここには 2 回ほど足を踏み入れたことがある。(規模的には日本の地方の中核都市にある総合病院のイメージである)

1 回目は SV として来ていた日本人が盲腸になり(結果的に手術はしなかったと思うが)2,3 日の入院が必要となった。この病院、外部からの店屋物の出前が OK で、見舞いと称して数人で様子を見に行き、当の患者は薬が効いて落ち着いているようだったので、病室に近所のラーメン屋(第一回で紹介したが、シラチャには町中華のような美味しいラーメン屋が多い)から出前を取って食べて帰ってきたことがある。日本の病院でもあるのかもしれないが、個人的には初めての経験だったので、少々驚いた記憶がある。

2 回目は土曜か日曜の夕方だったと思うが、指にトゲを刺してしまった。一人でうまく抜くことができないような状況で、化膿してもマズいと思い、何を思ったのかワザワザ病院に行ってしまった。休日の夕方のこともあり、担当の医者は若いお医者さんだったが、(こちらの)説明も下手だったのかもしれないが、いきなり指先に麻酔を打たれてしまった！こっちは毛抜きでトゲを抜くのを手伝ってもらふ程度のつもりで行ったのだが、麻酔を打たれてしまい感覚がなくなり、こねくりまわされてトゲも見えなくなってしまった。仕方なく暗澹たる思いで帰宅し、月曜に会社のメンバー誰かにしっかりしたところに連れてってもらふつもりで床に入った。翌朝 目が覚めて、ふと見ると傷口のところにトゲが浮き出ている、針を使って抜き取ることができた。昨日の病院での処置は何だったのだろうと 人生で忘れえない経験の一つとなった。

～その3 食あたり～

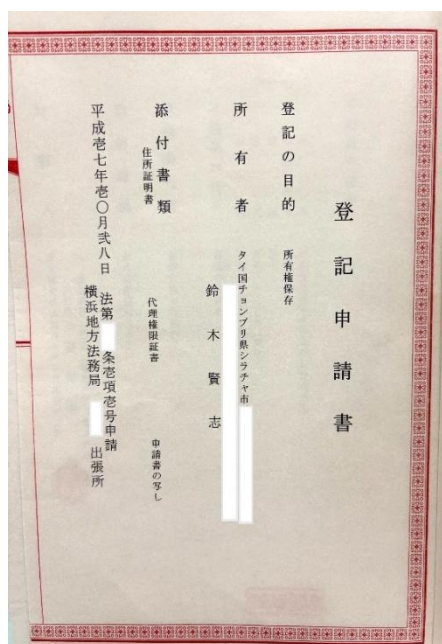
赴任して半年頃のことだったと思うが、日本からの出張者と拠点長(出向先の社長)の日本人3人で食事をしたのだが、夜日付が変わるところから下痢と嘔吐が始まり、1日目はほとんどアパートのトイレから出られず、2日目も少しは改善したと思うが似たような状況で、今まで日本では経験したことのないレベルが続いた。経験上大概是正露丸を多めに飲めば治るのだが今回は全く効かず、「これが海外の食あたりか」と思いつつも、トゲの件がトラウマになり医療機関を受診する気にはなれず、ひたすら自然治癒力に頼っていた。さすがに会社のほうもマズいと思ったのか、スタッフが薬を持ってきてくれた。正直あまり気が進まなかったが、そうも言ってられず、せっかく持ってきてくれたので服用してみたところ、ピタッと症状が止まったのにはビックリした。当時はあまり深く考えなかったが、少したってから薬が気になったので色々調べたところ、この薬は整腸剤ではなく鎮痛解熱剤と分かった。バファリン飲んで下痢が止まったということである。抗生物質的な要素が入っていたのかもしれないが何とも奇妙な話である。



(写真2) 当時服用した薬

原因は多分、夕飯に食べた刺身と推定で来たので、数日後一緒に食事した社長に聞いたところ、彼は何ともなかったとのこと。さすがに駐在経験の長さが効いているのかもしれない。もう一人の出張者は、当日帰国便に乗っていたらしいが、離陸と着陸の時以外はトイレに籠っていたとのこと、大体思い通りの状況であることが解った。(本来、体調不良は入国時に申告すべきもので、実際どう対応したか不明だが、既に時効である)

2.《日本大使館と不動産登記》



(写真3) 当時の登記申請書

パスポートやビザ関連は出向先の総務にお任せ状態だったので、大使館にはほとんど行ったことは無かった。それでも、初めて行ったのが、多分今思えば、領事部がビルの一角を間借りして手続きをやっているような時だったため、エレベータを降りるとすぐに空港のセキュリティーチェックのようなゲートをくぐり、狭いところで、待たされたのが最初の記憶である。傍から見ると、まるで紛争当事国から難民として出国を待っている人のように見えたかもしれない。しかしながら、その後、故あって海外にしながら不動産を動かすことになり、何回かタイ日本大使館にお邪魔することになる。

次に大使館を訪れたときは以前とは別の広い敷地に頼もしいセキュリティーを備えた立派な建物となっていた。この時には中で待たされた記憶もなく、手続きもスムーズだ

ったと思う。日本なら印鑑証明や本人確認などが必要と思うが、「ハンコ」はなく、パスポートと本人の signature のみで手続きを進めていく。日本の申請書類に外国の住所が(日本語で)記載されているパターンは珍しく感じたので、当時の書類は記念に保管している。(写真 3)

3.《新旧の空港》 2006 年 9 月

初回にも登場したが、2006 年 9 月に新空港ができるまでは、バンコクの北 20km ほどのところに“ドンムアン空港”というのがあり、皆そこを利用していた。プライベートを含め日本との間を往復する場合、バンコクを深夜 0 時くらいのフライトで成田に朝 8 時くらいに着き、戻りは成田を 17 時くらいに飛んでバンコクに 22 時くらいに着く便を利用していた。

そこに 2006 年の 9 月にバンコクの中心から東南に 25km ほどのところに“スワンナプーム空港”が開港した。「スワンナプーム」とは「黄金の土地」という意味らしいが、シラチャからだドンムアンに比べて 20 分くらい近くなったのはハッピーであった。

この新空港、敷地面積で成田の 3 倍、ドンムアンの 5 倍だったので、かなり広い空港である。また、デザインも斬新で、少し無機質な感じを残しつつ近未来的なイメージを醸し出していて、ドンムアンが古かっただけに、非常に新鮮なイメージがあった。また、ガスを使用しないことになっており、調理などは全て電化されているなどが話題になっていた。



(写真 4) タイ国政府観光庁日本事務所ホームページより

しかしながらタイにはよくあることだが、ご多分に漏れず開港期日までに準備が間に合わないところが随所に発生し、自分が初めて行ったのは開港から 2~3 週間ほど経っていたと思うが、いまだにトイレなどの天井が無かったり、何の穴かわからないが、何かがはめ込まれていない所が多々見受けられた。その後 帰任後も何度か利用したが、ここ十年ほどは訪タイする機会はないが来年は開港 20 年のはずなので、できれば行ってみたいものである。

今回はここまでとし、次回は最終回の第六回とさせていただく予定である。

To be continue 次号へ続く

お楽しみいただけましたでしょうか？

JRECO 通信は不定期刊行ではありますが、次回もご期待願います。

JRECO 通信のバックナンバーはホームページに掲載中

https://www.jreco.or.jp/jreco_news.html